

ほんばこ

愛媛県立今治西高等学校図書委員会 2026

8月になりました。まだまだ暑い日が続きますが、いかがお過ごしでしょうか。それぞれが勉強や部活動などで忙しい毎日を送っていることだろうと思います。そんな中で読書の時間を作ってみることは、気分転換になるだけでなく、新しい考え方や価値観に触れる良い機会にもなります。普段は手に取らないジャンルの本にも挑戦し、この夏ならではの一冊との出会いを楽しんでみてはいかがでしょうか。

8月 はづき 葉月 あきかげづき 秋風月 ちゅうしゅう 仲秋

二十四節気

りっしゅう
立秋 7日

初めて秋の気配が現れてくる頃です。暦の上では秋になるが、実際には残暑が厳しく1年で一番暑い時期です。

しよしよ
処暑 23日

暑さが峠を越えて過し易くなり始める頃です。二百十日、二百二十日と並んで台風襲来の警戒日と言われています。

図書委員よりおすすめの本

書名：『満願』 著者名：米澤穂信 出版社：新潮文庫

この本は、人間の心に潜む「どうしても譲れない願い」や「秘められたエゴ」を描いた、全6編のミステリー短編集です。多くの人はミステリーと聞くと、大掛かりなトリックや犯人捜しといったことを思い浮かべるかもしれませんが、しかし、この本の最大の魅力は事件の仕掛けというより「なぜ犯人はそんなことをしたのか」という人間の心情や動機の謎を描いているところです。タイトルである「満願」とは「願いがかなうこと」です。事件の真相や動機が明らかになるにつれ、登場人物の行動に呆れ驚かされる一方で、そこに込められた切実な思いや願いに共感してしまう瞬間もあります。どの編も、日常のすぐそばにある人間の欲望や執念を感じさせるものばかりです。短編なので普段あまり読書をしない人でも読みやすく、ぜひ手に取ってほしい一冊です。（3年 図書委員）

令和8年度 青少年読書感想文コンクール 課題読書部門 課題図書 紹介

青少年読書感想文全国コンクール課題読書部門課題図書

- 1 書名：『スイッチュ！』 著者名：藤ノ木優 出版社：徳間書店
- 2 書名：『平和のうぶごえ：「原爆の子」として生きた80年』 著者名：早志百合子 出版社：毎日新聞出版
- 3 書名：『ノアハム・ガーデンズの家』 著者：ペネロピ・ライブリー 訳：斎藤倫子 出版社：ゴブリン書房

夏休みを利用して、どんどん本を読みましょう。そして、それを文章で表現してみましょう。

夏季休業中の図書館利用について

時 間 11:30～16:30

※8月3日（月）～17日（月）は閉館します。

返 却 日 8月27日（木）まで

貸出冊数4冊まで（返却すれば何冊でもOK）

*希望する本が重複する場合があります。読み終えたら、早めに返却をしてください。



小論文に役立つ本 ・保管場所:図書館の雑誌掲載棚(閲覧のみ)
・保管場所:進路室(持出禁止—進路課教員を通じてコピーが可能)

小論文を書くときの参考にコーナーを設けています。ZEST で利用する人もいます。3年生だけでなく、1・2年生も、普段から興味のあるテーマについて読んでみることをお勧めします。

◆『現代用語の基礎知識 2026』(自由国民社)

現代社会を読み解くキーワードについて解説されているので、最新の情報・知識を得るのに便利です。ある分野についてまとまった知識を持つのに役立ちます。また、年度版で出されており、事柄によっては過去の版の方が詳しい場合があります。

◆『2026年の論点 100』(文藝春秋)

この年度に問題になった事柄について、分野ごとに識者が論じた文章が掲げられています。断片的な知識を得るのではなく、自分の論を形成するために、また、論文の書き方を学ぶために適しています。

◆『朝日キーワード 2027』(朝日新聞出版)

就職活動、資格試験、入試・小論文対策に活用される創刊43年の現代用語事典です。主な収録内容として、政治・経済の最新動向、国際情勢、科学・技術などを専門記者が分かりやすく解説しています。

先生方よりおすすめの本

今月は、赤松秀斗 先生(数学)です。

書名『A I と生きる 対話から始まる成長の物語』

著者名:結城 浩 出版社:S Bクリエイティブ

今回、おすすめ本の紹介文を担当することになり、「せっかくなら何か新しい本を」と思い立ち、書店へ足を運びました。書店を巡る中でふと目に留まったのが本書です。以前、結城さんの『数学ガール』を読んだことがあり、その方の新刊ということで、思わず手に取りました。本作は、生成A I が普及した現代を舞台にした青春教養小説です。主人公である高校2年生のテトラちゃんが、先輩や憧れのミルカさん、そしてA I との対話を通して、急速に進化するA I 社会への不安と向き合い、自らの生き方を模索していく姿が描かれています。進路や友情といった身近なテーマを通じ、現代に不可欠な「A I リテラシー」や「自ら考える姿勢」を等身大の視点で学べる一冊です。

さて、ここまで読んでくださった皆さん。何かお気づきでしょうか？実は、ここまでの文章は、すべて生成A I に書かせたものです。“そこそこ”の情報を与えれば、“それなり”の文章は一瞬で返ってきます。ただ、ここまでに「私自身の思考」は存在しません。これは普段の学習に例えるなら、問題集の解答をそのままノートに丸写ししたのと同じ状態です。答えを写しただけのノートには、皆さん自身の思考は存在しませんよね。本書に「創造性は選択に宿る」という言葉がありました。創造性は、書き手がどんな言葉を選び、どんな順序で並べるかとして発揮されるのです。数学の問題に関して言えば、A I が出した答えを丸写しして終わるのではなく、「なぜここでこの公式を使うのか?」「どうしてこの論理展開になるのか?」という疑問に自ら向き合い、自分の頭でしっかりと考え、悩むことが重要です。文章を書くときに言葉を選び並べるように、数学でも無数にあるアプローチの中で考え、悩み抜き、自分なりの解法を「選択」していくプロセスを手放さない限り、皆さんの創造性が失われることは決してありません。

「みなさんは「選択」という行為を切り捨ててはいませんか?」

A I を単なる〈正解を教えてくれる存在〉として扱ってしまえば、皆さんの思考はその時点で止まってしまいます。一方で〈考えることを助けてくれる存在〉であるとするなら、皆さんとA I との関係性は大きく変わり、より強力な味方になってくれるはずです。

高校生活はまさに「選択」の連続です。文理選択や将来の夢はもちろん、部活や友人関係、そして恋愛など、数学のように一つに解が定まらない「選択」に悩むことも多いと思います。私自身もつい最近まで皆さんと同じように悩み、迷いながら選んできた結果が今の自分を創っています。手軽な正解だけを求めるのではなく、対話を通して迷いながら選ぶプロセスを楽しんでいきましょう。この本はそのための大きなヒントを与えてくれるはずです。

御協力いただき、本当にありがとうございました。みなさんもぜひ読んでみてください！